今治明徳短大

歩き遍路体験学習レポートから ②

生活科学科
福永　陽子

「無心」悟り、マメで泣いた

「人生何事も勉強」とばかり歩き遍路に挑戦、無事完歩できました！

事前に二回ほど一日歩き体験実習しましたが、かなりの不安がありました。もしかするとゴールできないのでは…と。

一日目。大勢の方が応援にかけつけてくれました。一人遍路ではないことだと思いますが。初日は私達の班が先達。その後は各班で交代しましたが、とても勉強になりました。先達の日は特に歩くことにも積極的になれるし、「みんなを引っぱって行かないと」という責任感もでてくるし…。歩いたことのない道を、地図と標識を頼りにして進むスリルも体験しました。遠足みたいに先生の後ろをついて歩くのとは全く違う気持ちです。はじめはゆっくり、徐々にペースをあげていく―。

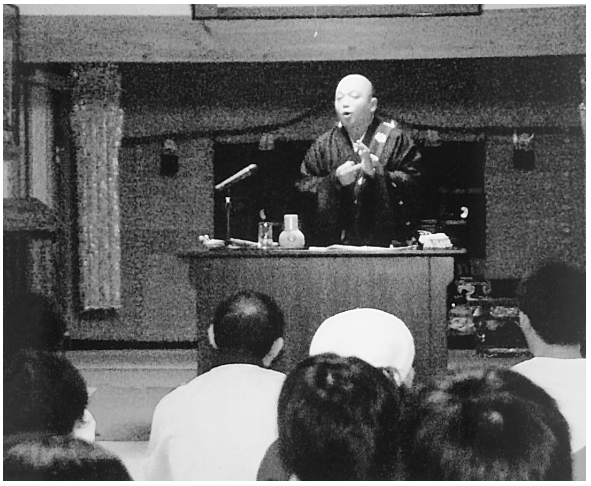
二日目。宿舎の豪華さに驚きました。食事も会席風で、修行中・実習中の身としては贅沢な気分を味わってしまいました。海が一面に広がる大浴場にもとても癒され、疲れも吹っ飛ぶほどでした。

この日はなぜか午前中にペースを上げすぎ、到着も早くてゆっくりくつろぐことができました。しかし、みんながばらばらに歩いていたのが気になるところです。一人ひとりのペース、歩き方、疲れ方が表面にでてきた日だったと思います。

もう少しまとまって歩きたいなぁ…と思ったところで三日目。この日は高知県に入り海沿いを歩きました。アスファルト、坂道、カンカン照りでサウナ状態が続き、とても苦しい歩きになりました。道路の固さも足にひびきます。お接待でいただいた梅おにぎりが最高でした。先生からの差し入れアイスクリームもほてった体にしみ込み、活力になりました。本当の修行中であればそんな贅沢は許されないと思うと同時に、バックアップ態勢のありがたさを実感です。室戸岬の「空海」の名が誕生した場所は、とても神秘的でした。

疲労もピークの四日目、最終宿舎の金剛頂寺を目指します。上半身は元気でしたが、下半身は筋肉痛や靴擦れ、マメで痛くて痛くて大変でした。ただ歩くことだけに集中して、勝手に足が動いていたという感じです。これが「無心」というものでしょうか。お寺では今回楽しみにしていた節談説教（ふしだんせっきょう）を、最前列で聞くことができました。初めて生で聞く説教、とても貴重な経験をさせていただきました。お話ししてくださった小角住職（三十番奥の院・安楽寺）は、「笑点」の歌丸さんに似た方でした。そして文化財級の寺宝も見ることができ、五感に刺激のある一日になりました。

そして、最終日です。前日はかかとのマメの痛さに大泣きし、どっと疲れてしまいました。人間関係や仕事などで辛くて泣くことはありましたが、体の痛さで泣くことは小学校の注射以来です。まさか涙が出るほどとは…、歩き続ける大変さを痛感しました。



小角住職（三十番奥の院・安楽寺）の節談説教＝金剛頂寺にて

この日目指すのは神峯寺。山頂までの道のりが恐ろしく、心臓が破れそうでした。この山がファイナルにふさわしい厳しさ、そして待ちに待ったゴールです。しかし一歩ずつ進めば確かにたどり着くという、ほのかな自信も生まれました。もう、半分は意識もなく無我夢中で歩いたので、ゴールして当分の間は実感がありませんでした。全員が到着し、写真を撮りだしてようやく「あー、終わったんだぁー」と実感が湧いてきました。全員元気で完歩して、喜びも倍増です。

安心感と達成感でいっぱいの体験学習は幕を閉じました。そして大好きな人、世代を超えた友達もできました。その人にも歩く力と生きる力をたくさんもらいました。班でも団結し助け合うことが自然にでき、貴重で充実した五日間をおくることができました。周りのすべての人たちに感謝します。ありがとうございました。